

## 実践報告9

# 3年生にパフォーマンステストを定期考査で実践

## — ICTで作業効率化も —

愛知県立天白高等学校 教諭 磯部 智洋

### 1 はじめに

令和3年度愛知県英語教育改善プランの重点目標の一つに「パフォーマンステストを各科目において年間3回以上実施する」ことが挙げられている。しかし、本校では3年生になるとパフォーマンステストは行っていない。40人の一斉授業であること、一つの科目を複数の教員が担当していること、受験科目にスピーキングやライティングがない生徒が多いなどが理由として挙げられるだろう。そして、本校と同じような現状の学校は数多いと思う。

しかし、その現状でも3年生にパフォーマンステストを行いたいと考えた。パフォーマンステストは生徒を成長させてくれると考えているからである。

教員の労力を減らし、3年生にもパフォーマンステストを実践できれば、天白高校と同じような現状を抱えている高校において、今回の実践がよいロールモデルになると考えた。

### 2 単元の目標と言語活動

#### (1) 教材

ア 教科書：Revised POLESTAR English Communication III 数研出版

イ 単元：Lesson 5 Understanding Communication without Words

#### (2) 単元の目標

非言語コミュニケーションについての文章を読み、さまざまなコミュニケーションとその文化的背景について理解を深める。また、効果的なコミュニケーションの方法について考えたり、自分の意見を言ったりすることを英語で積極的に行いながら、新出単語や表現についての定着をさせる。

### 3 関係する領域別目標（天白高校Can-Doリストから引用：卒業時までの目標）

聞くこと	時事問題などの社会性の高い内容の英文を聞き、必要な情報を的確に聞き取ることができる。
読むこと	時事問題などの社会性の高い分野の英文を初見で読んで、要点を的確に読み取ることができる。
話すこと [やりとり]	時事問題などの社会性の高いテーマについて、相手に伝わるように説明したり、自分の意見を述べたりすることができる。
話すこと [発表]	時事問題などの社会性の高いテーマについて、相手に伝わるように説明したり、自分の意見を述べたりすることができる。
書くこと	時事問題などの社会性の高いテーマについての自分の考えを、まとまりのある150語程度の英語で書くことができる。

#### 4 単元の評価規準（五つの領域ごとの評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書くこと	<p>&lt;知識&gt; 新出の語や表現を正しく書いている。</p> <p>&lt;技能&gt; 新出の語や表現について必要があれば使用できる。</p>	<p>非言語コミュニケーションや文化による非言語コミュニケーションの違いについて自分の意見を書いている。</p>	<p>非言語コミュニケーションや文化による非言語コミュニケーションの違いについて自分の意見を書こうとしている。</p>

#### 5 言語活動を中心とした指導と評価の計画

時間	ねらい, 学習活動	評価の観点			指導上の留意点, 評価規準 (評価方法)
		知	思	主	
1 2 3	<p>【ねらい】 本文を読み, 内容を正しく理解し, それについて話し合うなどのコミュニケーション活動を行う。</p> <p>【学習活動】 Introduction や Warm-up で写真を英語で説明して, 学習内容への関心を高める。</p>	○		○	本文の内容を簡潔にまとめて話したり, 書いたりしている。
4 5	<p>【ねらい】 本文を読み, それについて自分の意見を書く。添削内容や, 他の生徒, 模範解答を参考にしながら, 意見とそれに対する整合性が認められる理由とサポート文の重要性を学ぶ。</p> <p>【学習活動】 ①パフォーマンステストとして, Topic に対して 80 語以上の Essay を書く。 ②ルーブリックを基に Essay の自己評価を行う。 ③Google Classroom に Essay を入力して教員の添削を受ける。自分だけではなく他の生徒の文章を読み, 添削された内容に自ら気付いたり, Common Errors を直したりする。 ④採点基準を考慮に入れて, 意見とそれに対する整合性が認められる理由とサポート文を Google Classroom に入力して, 振り返りを行う。</p>		○	○	非言語コミュニケーションや文化による非言語コミュニケーションの違いについて自分の意見を積極的に表現している。
6	<p>【ねらい】 意見とそれに対する整合性が認められる理由とサポート文の作成力と自分が覚えた語や表現についての定着度を定期試験で測る。</p> <p>【学習活動】 定期試験で理由とサポート文を答える問題に答える。</p>	○	○		制限時間内に設定された語数以上の文章を書き, かつ正しい文章が書いている。

## 6 パフォーマンステスト

### (1) 実施方法

Lesson 5 を読み、読んだことに基づいて考えたことや感じたこと、その理由などを Google Classroom に英語で入力する。他の生徒の回答を参照しながら、その内容を何度も入力して改善していく。最後にテストを行い、制限時間内でも正確な文章を書けるようにする。また、振り返りを行って改善点や参考にしたことも評価する。振り返りも Google Classroom に入力する。

### (2) 指導上の留意点

改善を通じて最後に表現した内容の正確さやまとまり（語数）を評価するだけでなく、他の生徒の回答を参照した点や、自分で改善できた点も評価する。

## 7 ルーブリック

### (1) 評価方法

- ① Google Classroom への入力内容
- ② 改善した内容（振り返り）
- ③ 最終テストでの作文の内容

### (2) 評価の領域（内容のまとまり）：「書くこと」

「思考・判断・表現」について、単元を通して指導したことを踏まえて以下の二つの条件を全て満たしていれば「a」としている。なお、生徒の実態や指導の状況を踏まえ全ての条件を満たしていれば「a」、2個なら「b」、1個以下なら「c」とすることも考えられる。

条件1：定期考査で意見とそれに対する整合性が認められる理由とサポート文が書けている。サポート文が説明不足や説得力不足になっていない内容になっている。

条件2：定期考査でキーワードを一つ以上用いながら20語以上の文章を書いている。他の生徒の考えや表現を参考にしながら、自分の内容を充実させている。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	定期考査で、軽微な誤りもほとんどなく、文法面に配慮が行き届いている英文で書いている。	上記の二つの条件を全て満たしている。	上記の二つの条件を全て満たしながら、他の生徒の考えや表現を参考にしながら、自分の内容を充実させようとしている。
b	定期考査で文法・単語の誤りが多少あるが、読み手が趣旨を取り損ねるような誤りがない英文を書いている。	上記の二つの条件のうち一つを満たしている。	上記の二つの条件を全て満たして書こうとしている。
c	「b」を満たしていない。 (文法・単語の誤りが多く、文法面に配慮を欠いている。)	上記の二つの条件を両方とも満たしていない。	「b」を満たしていない。

※「おおむね満足できる」状況を b とする

## 8 実践報告

### (1) 実践のねらい

- ① 3年生（約360人）を対象とした教員4人によるパフォーマンステスト（英作文）の実施
- ② 英語を積極的に使う態度の育成
- ③ ルーブリックによる統一基準で効率的な評価の模索
- ④ ICTの積極的活用による生徒と教員双方の作業効率化

### (2) 実践手順と内容

手順	内容
1	Worksheet に作文を記入
2	自己評価と、理由とサポート文一つを Google Classroom に入力
3	添削例と Common Errors をスマートフォンとプロジェクタで確認
4	確認後、理由とサポート文を Google Classroom に入力
5	定期考査に向けて、明確な採点基準、模範解答を確認
6	定期考査でパフォーマンステストを再度解答
7	Google Forms で振り返りを入力

### (3) 実践の結果

2学期中間考査 English Communication IIIに出題した。マークシートで答える問題（80点）と記述問題（20点）のうち英作文の問題をパフォーマンステスト（8点）として出題した。解答用紙にもルーブリックを載せて、生徒、教員双方にとっても採点基準を分かりやすくした。

また、文構成と正確さの2観点のみで採点し、意見、理由とサポート文に整合性があれば3点とした。正確さは何度も書いているので、スペルミス1つ一つまでは許容範囲とするが文法ミスは許さないという採点基準にした。ルーブリックを解答用紙に記載したのは、生徒が考査返却時に何点だったのか分かり、訂正や質問に答えやすいようにしたかったためである。

### (4) 実践の成果、考察

- ① 複数教員で行うためにはルーブリックの作成は必須。
- ② 実践の中でルーブリックを修正、改善していくことが重要。

今回、指導の段階で生徒が書いた文章には、意見、理由とサポート文の整合性がないものが多かった。そのため、パフォーマンステストの際には改めて採点基準を示し、ルーブリックも修正した。最初作ったルーブリックを使い続けるのではなく、生徒とのやり取りの中でルーブリックを修正していくことが大切である。

- ③ スマートフォン（タブレット）を活用することで、生徒は積極的に英語を使う。

スマートフォンで入力する方が生徒は意欲的である。スマートフォンの方が修正が容易なので積極的になるのではないかと考える。

- ④ ICTの活用（Google Classroom や Forms の活用）は、生徒の提出状況確認やアンケートの集約に効果的。

提出状況の確認、英文の共有や添削、返信などは Google Classroom を活用し、アンケート集約、振り返りには Google Forms を活用した。提出状況など課題の確認は簡単になることが利点である。もちろん、コピー&ペーストしていないかどうかのチェックは必要だが、提出したかを見るだけなら ICTの方が簡単である。返信も容易にでき、気になる発言や意見にはコメントできるので非常に効率的であ

った。また、視覚化しやすいことも利点として挙げられる。生徒全体の意見を見やすく、具体化できる点で、Google Forms やテキストマイニングは今後も実践しながら可能性を広げていけると考える。

⑤ 生徒は定期考査でパフォーマンステストを出題したことを、自身の成長、表現の定着を図る上で重要と実感。

アンケート結果から分かったことだが、定期考査でもう一度同じ内容を出題したことに生徒の半数以上は意味があると回答した。また大学入試を控える3年生にとってもパフォーマンステストは効果的と60%以上の生徒が回答した。ライティングが大学入試で必要のない生徒も効果的だと回答している。

#### (5) 今後に向けての課題

主体的に学習に取り組む態度を評価するとき、「書くこと」は成果物のみで判断することになるので、過程を評価できない。教員、生徒双方にとって客観的な評価方法を探っていくことが今後の検討事項になると考える。

## 9 参考文献

- ・文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編英語編』
- ・文部科学省 国立教育政策研究所（2019）『学習評価の在り方ハンドブック（高等学校編）』
- ・国立教育政策研究所（2021）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 外国語』
- ・愛知県総合教育センター（2017）『授業の手引 高等学校英語』
- ・愛知県総合教育センター（2018）『指導と評価の充実に向けて ～学習評価の工夫改善を意識した学習指導のポイント～』

[https://apcc.aichi-c.ed.jp/kenkyu/katei/gaku-hyouka/2018/hyoukashuhou/28hyouka\\_leaflet.pdf](https://apcc.aichi-c.ed.jp/kenkyu/katei/gaku-hyouka/2018/hyoukashuhou/28hyouka_leaflet.pdf)